

調査問題の内容

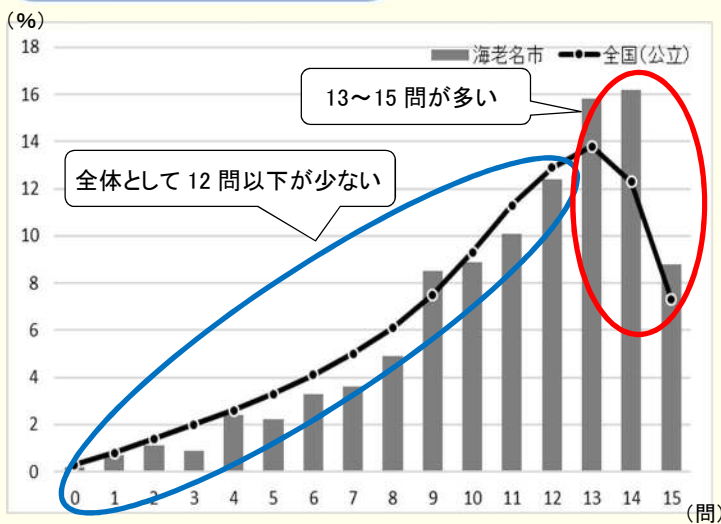
学習指導要領に示されている各領域に基づき、インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか自分の考えを書く問題、読書に関する二つの文章を参考にして、これからどのように本を読んでいきたいかについて考え読書に関する知識や経験に触れながら自分の考えを書く問題などが出題されています。

全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率	73.4%	70.0%	69.8%	3.6
平均正答数	11.0/14問	10.4/14問	10.5問 /14問	0.5

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率。

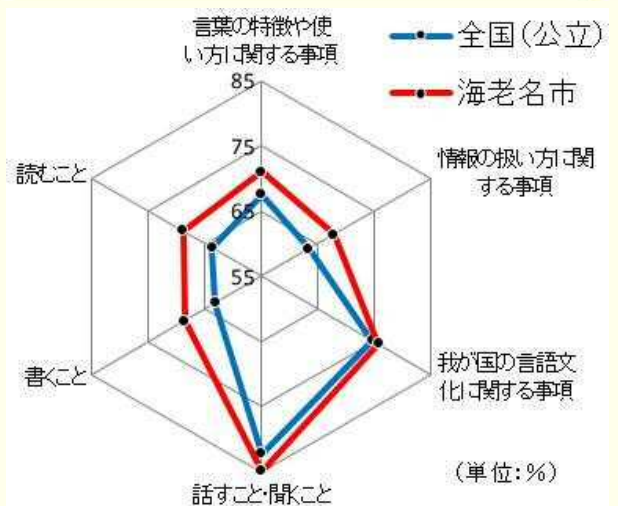
正答数分布グラフ (横軸:正答数、縦軸:割合)



正答率が80%以上(正答数12~15問)の生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っています。

正答率が、50%以下(正答数0~8問)の生徒の割合は、全国と比較して大きく上回っています。

学習指導要領の領域等の平均正答率



「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の領域は、全国と比較して、上回っています。

分類・区分別集計結果

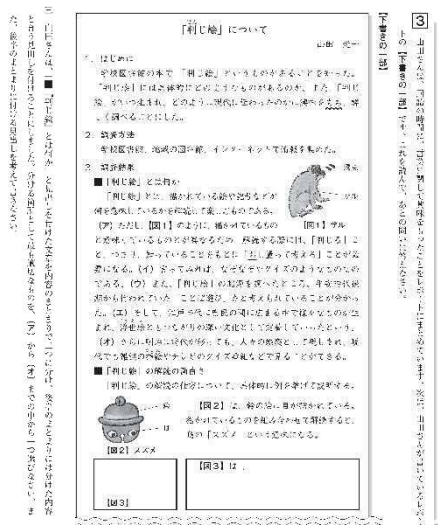
分類	区分	対象問題数	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			海老名市	全国(公立)	全国との比較	海老名市	全国(公立)	全国との比較
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	2問	71	67.5	3.5	4.7	5.5	-0.7
	情報の扱い方に関する事項	2問	67.8	63.4	4.4	0.6	1.2	-0.6
	我が国の言語文化に関する事項	3問	75.8	74.7	1.1	3.1	4.1	-1.0
	話すこと・聞くこと	3問	84.8	82.2	2.6	2.4	3.7	-1.3
	書くこと	2問	68.6	63.2	5.4	3.8	5.4	-1.6
問題形式	読むこと	4問	68.9	63.7	5.2	4.8	6.3	-1.5
	選択式	7問	76.5	73.1	3.4	0.2	0.3	-0.1
	短答式	4問	68.5	65.6	2.9	4.2	5.3	-1.1
	記述式	4問	72.8	68	4.8	8.3	11.8	-3.5

海老名市の結果についての分析

- 平均正答率、平均正答数を見ると、全国と比べて上回っています。
- 平均正答率が全国を上回った問題は、14 問中 13 問です。また、平均正答率が 80%以上の問題は、14 問中 3 問(全国は 4 問)です。
- 平均正答率が全国を上回った 13 問のうち、3 ポイント以上上回った問題は 10 問です。また、記述式の問題は 4 問ありましたが、全て全国を 3 ポイント以上上回りました。
- 平均無解答率では、全国と同様に、記述式の無解答率が高い傾向がみられます。

全国の正答率と差が見られた問題の例

中学校国語のすべての問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。



③ レポートを書く（「判じ絵」）

趣旨 具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかを見る。

正答例 分ける箇所（ウ）
見出し 「判じ絵」の歴史

◇この問題の正答率
海老名市 69.2%
全国（公立） 61.8%
（全国との比較 +7.4）

考察

- 「具体」や「抽象」は学習・生活場面でも用いられる事が多い言葉であり、具体は例示の際に、抽象は共通する要素をまとめる際などに使われていることを理解できていると考えられます。
- 同訓の漢字の使い分けに課題があります。漢字を実際に書くだけでなく ICT 機器などを使って「入力」することが多くなっていることから、漢字の学習に工夫が必要です。

指導の改善にむけて

◆言葉の力を定着し、磨いていくために

- 振り返り活動を丁寧に行い、生徒がどのようなことを学んだのか自覚できるように指導し、また学んだことを意識的に活用したり、確認したりできるような学習活動を取り入れます。

◆根拠を明確にして書くために

- 文章の構成や展開、表現の仕方について分析するだけでなく、そのような表現をした書き手の目的や意図を読み取ったり、その効果について考えたりすることができるように指導します。
- 教材に書かれていることを根拠に自分の考えを書いたり話したりする学習を意識的に取り入れていきます。